＜認知症対応型共同生活介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372201380
法人名	株式会社サンケイ
事業所名	グループホームチアフル花明かり・友明かり
訪問調査日	平成　19年　12月　20日
評価確定日	平成　20年　2月　5日
評価機関名	特定非営利活動法人「サークル・福寿草」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年1月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2372201380
法人名	株式会社 サンケイ
事業所名	グループホーム チアフル 花明かり・友明かり
所在地	愛知県一宮市北方町曽根字村裏西15番地 （電　話）0586-86-8512

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地　COMBi本陣N203		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】（平成19年12月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成15年11月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	14　人	常勤　11人，　非常勤　3人，　常勤換算 10．6 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての　1 階 ～ 2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	42,000　円		その他の経費（月額）	水光熱費12,000円、管理費12,000円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　150,000　円）		有りの場合 償却の有無	有（6か月以内退去時 1/2返却）
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　1,000　円			

（4）利用者の概要（12月10日現在）

利用者人数		18 名	男性　4 名	女性	14 名
要介護1		3　名	要介護2	2	名
要介護3		9　名	要介護4	4	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	83 歳	最低　74 歳	最高	93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	一宮市立木曽川病院　一宮西病院　五藤医院　松岡医院　丸井歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年目のホームは四季折々の「田んぼの風情」と共にのどかにたたずむ。道路からは、鉢植えの花に横目に緩やかなスロープを辿ると玄関に行き着く。玄関の自動ドアを手で開けて中に入ると、賑やかな声が耳に入る。「1日1回、散歩に出る、歌を歌う」などの活動のかけ声である。『生きているって素敵！』と看板に掲げられた「合言葉」は大変解り易い。居室の配置は長屋風のイメージで、暖簾や表札が利用者の独自色を表している。ホームは、職員の力量が利用者へのケアサービスの質に繋がるとして、正職員を多く配置し、ゆとりのあるケア体制を取っている。居間や廊下の装飾や作品の展示方法にも工夫と気配りがあって、飾りつけにも品格が感じられる。家庭的で、生きる喜びと生きがいのある暮らしをしっかりとサポートしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価では、喫煙容認と火の不始末などへの対応が求められた。ホームは喫煙者本人、家族とよく話し合って、喫煙のあり方や喫煙場所を定めてきた。火の不始末は他の利用者の生命にも関わってくる問題なので、しっかりと見守りや禁煙誘導などにも努めていって欲しい。また、ホームは、駐車場を使ったホーム独自の夏祭りに近隣の住民を招くなど地域との交流に努めている。今後もボランティアの受入れやケア実習生の受入れに取り組んでいく予定である。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価の結果は職員会議や日々のミーティングで取り上げ、全職員で話し合い、情報共有し、サービスの改善に繋がるように努めてきた。どんな些細なことでも全体で取り上げ、皆で話し合うという土壌ができている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は定期的に開催されている。地域からは町内会長、老人会長、行政側からは地域包括支援センター、家族の代表者、ホーム側は責任者、ユニットリーダー、ケアマネらが参加している。最近の会議では、各ユニット毎の活動報告（脳の活性化学習、スクワット体操の試み）、現状の課題（重症化への対応）、イベント紹介（運動会の予定や協力要請）がホームより、地域包括支援センターからは市の介護予防教室利用者の状況等が報告されている。今後も会議を通して、地域、行政との連携、家族の理解、サービスの質の向上に努めていくことが期待される。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

今回実施の「家族アンケーの結果」では、多くの家族から高い満足度（開放的で明るい、きめの細かい対応をしてもらっている、など）を得ている。家族の要望や意向をよく聞いている状況が伝わってくる。医療の必要性や重症化した場合の対応については、よく家族と話し合い、安心と納得の支援が提供できるようにホームを挙げて取り組まれるよう期待する。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

利用者は、日々の散歩、買い物時に、近隣の人たちに挨拶や声かけをしている。駐車場を会場にした「ホームの夏祭り」に住民を招待したり、地元の七夕まつり、夏祭り、文化祭などに出かけたり、児童館での子どもたちとの触れ合い活動など、地域交流に努めている。また、毎月発行されているホーム誌「チアフル便り」は地域の人たちにも配布されている。職員の「自分たちからの情報発信をしていきたい」との意欲・思いも高く期待されている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生きているってすてき」を合言葉にして、ホームは利用者に人生の喜びやさまざまな楽しみを感じてもらい、「生きがい」へと繋がるケアを実践することを目指し、利用者に「自分らしく誇りを持ちながら、自分でできる喜びを感じていただく」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで理念が目指すところをを取り上げ、利用者のやりたいことをどう拾い上げるか、その利用者の状況を認めた上で、その人ができることをできるだけしてもらう、ということを方針として、管理者、職員は理念に基づき、日々の業務に当たるように心がけている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の文化祭に出展したり、児童館での子供たちとの交流を行っている。また、地域の老人会や婦人会にもできる限り参加をしている。	○	積極的に地域行事に参加しているが、まだホームがどのようなところなのか理解ができていない住民も多い。今以上に地域の理解が得られるような取り組みを実施するよう期待する。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	責任者（マネージャー）が自己評価をするのではなく、各ユニットのリーダーに権限を委ね、職員全員で検討して、今回の自己評価を取りまとめるなど具体的に取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には各ユニットの家族の代表が出席し、また、町内会長や老人会長も毎回参加をしている。ホーム内での取り組みに留まらず、家族や地域からの提案や苦言などにも謙虚に耳を傾け、実現可能なことから対応をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市はホームとの直接的な連携を求めてはいないが、ホームは市町村連携の一環として、市が主催する介護者教室の開催にホームの一角を提供したいとの意向を打ち出している。	○	ホームの実践活動や現状を行政に理解してもらうためにも、積極的に連携の機会を作り、介護教室などを開催しながら、地域との関わりを強めていくことを期待する。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「チアフル便り」を発行して、日頃の様子を家族に伝えている。「チアフル便り」にはコメント欄を設け、利用者本人の近況を記入している。また、預かり金の出納内容をコピー添付して事前に報告、面会訪問時に家族の確認印・サインをもらっている。行事案内も利用者の「直筆による手紙」とするなど、家族の参加を促すように工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階の玄関ホールにある公衆電話の横に「ご意見箱」を設けている。職員は、家族の面会時に陽気に声をかけて、日頃から家族と気軽に話ができるよう雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「安定した職員確保」がよいケアに繋がるとして、ほとんどの職員を常勤としている。退職者が少ないので、職員異動などに伴う利用者の混乱はあまり見られない。ホームは利用者や家族に混乱を招かないように職員の配置にも配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は定期的な研修を受けている。地域で開催される研修には可能な限り参加するようにしているし、新入職員研修は2週間をかけて行っている。また、ホームは介護福祉士への資格取得についても勤務シフトを配慮するなどの支援をしている。	○	県主催の「認知症について」の研修会などの機会を積極的に活用し、職員の資質の向上に努められることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームを見学したり、また、見学者を受け入れるなど、同業者との交流も行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームは、さりげなく本人と面接をしたり、ホームに遊びにきてもらったりして、本人の現状を確認しながら、入居や共同生活へ説明を行っている。また、入居当初は職員との1対1の対応で信頼関係を築くようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性利用者は菜園管理を任されており、季節毎の野菜づくりに励み、これらは日々の食事材料として活用されている。また、日頃は、食事の準備や後片づけなど、できる人ができない人の配膳準備を手伝うなど、自然に利用者が支え合う状況が作られている。職員とも、家族に声をかけるような家庭的な打ち解けた関係が作られている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	元気な利用者は自分が主役になりたいとの気持ちが強い。職員はどの利用者に対してもいろいろな場面で、できるだけ主役になれるよう配慮をしている。そのために、利用者の状態をきちんと把握し、その利用者のできることを見い出すように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングで、個々の利用者のできること、できないことを確認して、一人ひとりのケア内容や接し方を検討している。介護計画の内容は日々の「生活記録表」にも記載されており、職員はいつも、容易に内容の確認と情報の共有を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月毎に見直しが行われる。利用者に状態変化や問題が浮上した場合には、その都度ミーティングで話し合い、介護計画の見直しを実施している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営母体の法人が老人保険施設や特別養護老人ホームと協力関係を築いているので、入・退去の連携も取りやすい。また、協力医療機関との連携も整っており、急変時などの柔軟な対応も可能な状況となっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の要望があれば、利用者の「かかりつけ医」の受診ができるようにしている。家族よりホームに医療選択が一任されている場合には、「ホームのかかりつけ医」に診てもらうようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	将来的な「看取り」は積極的に行わない方針であるが、家族や医療機関と話し合い、対応を選択することとしている。むしろ、グループホーム本来の役割を大切にするケアを重視したいとの考えを持っている。ただし、終末期のゴールが見えているような状況では「看取り」を行うことも考えている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーを考え、記録書の記載においてもイニシャルを使って記入するなど、個人が特定できないような工夫もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての特別な予定が組まれていない場合には、その日１日、何をして過ごしたいかを利用者一人ひとりが決めるようにしている。自分で意志決定が難しい利用者には、いくつかの過ごし方を提案し、本人の意向を汲むようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム全体で同じメニューの食事を作るのでなく、ユニット毎に利用者と一緒に考えて献立を決め、調理をしている。配膳も下膳もセルフ方式で、配・下膳ができない利用者には動ける利用者が手伝うなど、お互いが支え合う関係ができている。茶碗、箸、テーブルマットは好みのものや馴染んだものを使って、家庭的な食事が楽しめるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予め入浴の時間と順序を決めている。どのような入浴を望んでいるか本人の希望を聞き、ミスマッチが生じないように気をつけている。入浴を拒否する利用者には、足湯や清拭を行うようにしている。1人で浴槽に浸かることができない利用者には、職員2名の体勢で浴槽に浸かってもらうように支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の役割を担ったり、職員と連れ立ってスーパーに買い物に行くなど、気晴らしや楽しみごとを支援している。「手芸や習字」などの趣味活動では、「その道に長けた」方が講師になっている。最寄りの児童館で、子どもたちに昔話を聞かせに出向くこともしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	大方の利用者は、喫茶店のモーニングサービスやランチを食べに出かけるなど、外出の機会を作っている。散歩は時間差を設けて、天候を見測りながら、利用者全員が毎日、外出するようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には玄関や居室には鍵をかけないが、玄関は防犯上の都合や職員が手薄になる時間帯には鍵をかけることもある。玄関は自動開閉ドアであるが、日中は自動ドアのスイッチが切られているので、屋外の出入りには、職員を呼ぶか、自ら手動操作をしてドアを開閉する。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼間での防災・避難訓練を実施している。階段を使用しての避難ではなく、2階の広いベランダに脱出する。広い2階のベランダが初期での避難場所に指定されている。職員より夜間での訓練が必要との声も上がっているように、防災への職員の意識は高い。	○	職員の意見等を取り入れて、夜間時の防災・避難訓練に取り組むよう期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配・下膳の際に職員がさりげなく食事量および水分摂取量をチェックしている。職員は食事中にも食事が滞る利用者に声かけをしながら、楽しく食事ができるように適切な介助や支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂も廊下もオープンキッチンから容易に見渡せ、利用者の動きが容易に把握できる。利用者は集団で過ごすばかりではなく、少人数でくつろいだり一人になることも必要と考え、廊下の一角に畳敷きの「くつろぎのスペース」がある。また、居間や廊下には利用者の創作作品が装飾を凝らして掲示や展示されており、これが利用者の制作意欲をかきたてることに繋がっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスや使い慣れたベッドなどを居室に持ち込み、一人ひとり好みの生活空間を作り出している。各居室の入口には利用者それぞれの好みの暖簾が掲げられており、自分の居室を間違えることもなく、表札の代わりにもなっている。		